

化学工業日報

2014年2月4日(火)

伝導性を高めた導電性ポリマー「R i C P」を開発

理学は2013年、山梨大学の奥崎秀典准教授と共同で、高い電気伝導性を持ち高濃度、低コストを特徴とする導電性ポリマー「R i C P」を開発した。清澤浄社長は「長野で40年間、理化学分析機器などの販売および土木・建設関連計測機器の販売を行う商社として活動してきたが、事業環境の変化を考慮し、新規事業として導電性ポリマーの製造、販売を開始した。新たな事業柱になれば」と期待を寄せる。

パーソン



理学社長
清澤 浄 氏

清澤社長は現在の同社の状況について「これまで展開してきた土木関連の分析機器は、ダム建設の減少などを背景に販売がダウンしており、現在は売上高の9割が理化学分析機器で占められている」と説明する。ただ「同機器が高価格で大幅な成長が見込みにくいこともこれまでの製品に比べ

アプリ拡大と海外開拓に力

大幅に低コストであることの特徴としている。今後、R i C Pで狙うのがアプリケーションの拡大と海外市場の開拓。アプリの拡大では、電導度の向上など高性能化を図り、IoT代替にとまらず、より広範な用途を開拓していく計画。

一方、海外市場の開拓については今春の発売当初は手つかずだったが、「中国から引き合いがありサンプル供給を行うことになった」と話しており、今後、アジア圏などを対象に勢いがつきそうだ。